

東白川村 美しい村づくり 委員会

第66回

○場 所：五加交流サロンほほえみ

○時 期：令和4年10月24日 19:00～21:00

○参加者：委員1名 一般4名 行政担当6名

【今年度委員会の目的】

①住民参加の場 ②交流・対話の場 ③学びの場

「持続可能な美しい村」を実現するため、「住民と行政で共に学ぶ」をテーマに、
「学びの場」と「対話の場」を設け活動しています。

第1 総務課長あいさつ（村長欠席）

第2 第6回学び合い会「若者と地域づくり」

ゲストスピーカー：戸高翼さん

現在28歳の戸高さんは大学時代から、かかみがはら暮らし委員会の活動をとおして、まちを楽しむコミュニティ、居場所づくりに取り組んでいます。官民連携の公園活性化や、大小多様なイベントの企画運営、カフェ運営など、人を中心とした地域づくりについて若者の視点で何を経験し何を感じてきたかのお話を伺いました。

【担当者メモ】

- ・暮らし委員会で起きているまちづくりは、自己実現の集合と、その過程で生まれるコミュニケーションによる、人とコトの循環。
- ・まちを楽しむ＝自分も他人とも楽しむ
まち＝社会。ひとりではなく、誰かと関することで自分にとっての社会（まち）を豊かにすること。

- ・かかみがはら暮らし委員会は、マーケット日和の市民企画委員をきっかけに繋がった市内在住者 5 人で 2016 年にスタート。カフェ KAKAMIGAHARA STAND の運営を経て、2019 年にコミュニティ事業をスタート。現在、90 人以上で会費は 500 円。会費の使い道やコミュニティの運営方法やイベント企画など、全てメンバー自身が行う、自治会のような形式で運営。委員長はメンバーによる選挙で選ばれる。
- ・使われない公園を愛される公園へ官民協働で進化させ、全国から視察がくる先進事例となる。年 1 回開催イベントの「マーケット日和」は 3 万人以上の来場者規模だが、行政が、このイベントを市民と企画運営するスタイルを採用することがきっかけで暮らし委員会が生まれた。そして、年 1 回使われる公園から、毎日楽しむ公園へとまちづくり活動が行われてきた。そして、学びの森と市民公園をつなぎ、賑わいを創出する施設「KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE（カカミガハラパークブリッジ）」が「Park-PFI 制度」を活用し、官民連携で整備運営された。建物内部には、屋内遊戯施設「遊び創造 labo」や、テイクアウト可能な飲食店が入っている。現在は学びの森に隣接する各務原市民公園のリニューアル整備事業が官民協働で進められている。戸高さんもパークマネージャーとして事業に参加しており、現在は公園利用者の声や、公園のリニューアルに関心のある仲間集めを行っている。
- ・戸高さんは当初、暮らし委員会の事務局として活動していたが、コミュニティ事業が始まった後、コミュニティの自立性を促進するため、事務局を辞め、参加者側の立ち居地に移り活動を続け、現在は暮らし委員会の委員長を務めている。
- ・暮らし委員会の活動や、自分の価値を計る実験として‘スキルを売るお店’を運営するなかで、まちづくりに関する仕事へと昇華していた。公園活性化から、交流の場づくり、そして駅前空き店舗を利活用し新たな交流の場づくりに行政と連携しつつ奔走している。
- ・暮らし委員会では、戸高さんが担当している「寄り合い」を毎月 1 回開

催しており、現在 65 回目を数える。(2022 年 11 月現在) 参加者は高校生から年配の方まで多様な方が参加している。(参加料 500 円)

目的は、「人と人をつなぐ」こと。毎回、15 人から 20 人が参加し、1/3 が初めての方、1/3 が 2、3 回目の方、残りの 1/3 が常連の方とのこと。毎回、初めての方が参加している理由は、市のいろんな事業が「寄り合い」の案内窓口として機能しているためだった。

この会の様子は SNS で公開されている。そして、内容は毎回リセットされており、初めての方への配慮がなされている。そして、新しい活動がここから生まれていた。

- ・大変注目されている「かかみがはら暮らし委員会」は、以前から、重要なまちづくり事業の多くの布石があるためだった。

【質問など】

Q1：駅前空き店舗を活用したコミュニティスペースの利用は会費制ですか？

A1：シェアハウスにおけるリビング（共有スペース）をイメージしていて、住人だけでなく住人の友達などが利用する形を目指しています。利用者がお客の関係にならないよう設計するのは難しく、現在も検討中です。今は、持寄り制をとっています。持寄るものは、チカラとモノです。お金は、モノの一部として投げ銭スタイルとなっています。

Q2：商店街エリアマネジメントでは、利活用可能な物件が見つからないと聞きますが、いかがですか。

A2：はい。なかなか物件が見つからない状況です。ベルハウスとしては物件を持つイメージはなく、暮らし委員会の他のメンバーで不動産に関心のあるチームが物件を探すなど、連携できる形を目指しています。

Q3：「学びの森」が利用されていない時期を知っていますか。

A3：はい、知っています。僕が中学生になるときに出来た公園ですが、それ以前（大学跡地から公園までの間）は鬱蒼とした森でした。公園になってからも、中学生の頃は、近道するときに通るだけの公園でした。ハードデザインは同じなのに、こんなに利用されるようになったのは、ブランディング

グをして、こんな人に来て欲しいというターゲティングをされたイベントを開催してきたからだと思います。イベント開催がゴールではなく、ターゲットの方々に利用される日常になることが目標でした。

Q4 : 「寄り合い」ではどんな話題がでていますか。

A4 : 最近では、「よしもと住みます芸人」が参加したり、若い方の恋愛話しなどがありました。

Q5 : 15 人から 20 人の参加者数だと自己紹介で 1 時間かかると思いますが、時間配分など、どうされていますか。

A5 : 人数が多いときは、自己紹介の時間を少なくします。事前に会場に自己紹介と話したい話題などを参加者さんに書いていただいているので、自己紹介が短くなっても大丈夫です。また、1 人の方の話が長くなる時はありますが、さえぎることはしません。会の始めに、この会は、「みんなで話して盛り上げる場」です。「みなさんには話題提供と聞くことをお願いします。」と毎回伝えています。

Q6 : 若い方は参加されますか。

A6 : 参加者は、20 代から 30 代の方が一番多くて、次が 40 代、その次が 70 代と高校生となっています。大学生の方がよく参加されていますよ。

Q7 : 高校との連携などされていますか？

A7 : 各務野高校の情報化クラスと連携しています。

Q8 : 日本茶スタンドのお話がありましたが、どんな想いでやられていますか。日本茶の販売が苦戦しているなか、若い方が日本茶に惹かれていることを詳しく聞きたいと思いました。

A8 : 日本茶に惹かれたきっかけは、カカミガハラスタンドで東白川村のお茶イベントが開催されたことです。そこで、日本茶の魅力と茶師の田口さんの魅力を知りました。今まで飲んできたお茶はなんだったんだろうって東白川村のお茶の美味しさに驚きました。日本茶スタンドは、「場をつくる」「空間をつくる」要素として日本茶を選びました。他にはない新しいことに取り組みたいのも理由のひとつです。

Q9：新しく開店する本屋さんのことと、最高の居酒屋を教えてください。

A9：新しく開店する本屋さんは、「カクカクブックス」さんで、新刊と古本を個人セレクトするお店です。内装などDIYをやっています。ぜひ、行ってください。最高の居酒屋は「ご縁どり」さんです。美味しくリーズナブルで、店主の魅力が大好きです。

Q10：東白川村の課題は何ですか。（戸高さん）

A10：コロナ禍以降の、つちのこフェスタをはじめとしたイベントのあり方が課題です。イベントをとおして、まずは東白川村を知ってもらい、東白川村のファン人口を増やしたい。（村雲和裕さん）

O1：イベントはどんな方に来てもらいたいのか、ブランディングとターゲティングが重要です。また、村の魅力やファンを増やすには、移住された方の意見がヒントになると思います。（戸高さん）

◆移住された方々から、移住の理由を聞き、会は終了となりました。

第3 閉会（21：30）

以上

【次回】 話し合い会

テーマ：これからの官民協働の美しい村活動について

日程：11月25日（金） 19時～21時

場所：五加交流サロンほほえみ

以上



